

三九五三番

雁かりがねは 使つかひに來こむと 騒さわくらむ 秋風あきかぜ寒さむみ  
その川かはの上へに

三九五四番

馬うま並なめて いざ打うち行ゆかな 洩しぶたに谿たにの 清きよき磯いそ廻まに  
寄よする波見なみみに

三九五五番

ぬばたまの 夜よはふけぬらし 玉たまくしげ 二上山ふたがみやま  
に 月傾つきかたがきぬ

大目だいさくわん秦はだの 忌寸いみき八千島やちしまの館むろつみに宴うたげする歌一首

三九五六番

奈呉なごの海人あまの 釣つりする舟ふねは 今いまこそば 舟棚ふなだ打なち  
て あへて漕こぎ出でめ